

令和4年度 事業報告

1 はじめに

我が国の経済は、コロナ禍からの社会経済活動の正常化が進みつつある中、緩やかな持ち直しが続いている。その一方で、世界的なエネルギー・食料価格の高騰や欧米国金融引き締め等による世界的な景気後退懸念など、我が国経済を取り巻く環境には厳しさが増している。

こうした景気の下振れリスクに先手を打ち、我が国経済を民需主導の持続的な成長経路に乗せていくため、「物価高・円安への対応」、「構造的な賃上げ」、「成長のための投資と改革」を重点分野とする「物価高克服・経済再生実現のための総合経済対策」を策定した。その裏付けとなる第二次補正予算等を迅速かつ着実に実行し、万全の経済財政運営を行う。

こうした下で、我が国経済については、実質国内総生産（実質GDP）成長率は1.7%程度、名目国内総生産（名目GDP）成長率は1.8%程度となることが見込まれる。消費者物価（総合）については、エネルギーや食料価格の上昇に伴い、3.0%程度の上昇率になると見込まれる。

このような経済の中、団塊世代が後期高齢者となり始め今後高齢化や人口減少が本格化する下で、我が国が経済成長を続けていくためには、労働の量と質を確保していくことが一層重要となる。こうした問題意識から人への投資の動向と課題について、雇用側と企業側の双方から中長期的な観点で考察を行う。

今後人口減少に伴う労働投入量の減少が見込まれる中で成長への下押しを緩和していくためには、**女性や高齢者**をはじめ働く意欲を持ちながら十分に就業が出来ていない者の労働参加を促していくことが重要である。非正規雇用者や失業者、現在無業者で就業を希望する者は、人口の一割弱程度を占めるがこれらの層をいかに希望する就業に繋げるかが課題である。短時間就業者で就業時間の増加を希望する者、女性を中心に就業時間を調整しているものなどに対して、制度の見直しや効果的な就業支援を通じて活躍の機会を広げていくことが重要である。（経済白書）

さて、少子高齢化の急速な伸展さらには平均寿命の伸張により世界に例を見ない超高齢化社会に入り「**人生100年時代**」と言われる長い人生を送る時代を迎えつつあります。労働人口が減少し労働力不足が深刻になっている今日、働く意欲のある高齢者に、年齢に関わりなく活躍できる多様な就業機会を提供する方針が打ち出され、地域で働ける場づくりや地域社会の支えとなる「**生涯現役社会**」の実現が進められています。

このような中、シルバー人材センターは、高齢者の方々に多様な就業機会を提供し、その中で地域の日常生活に密着した就業機会などにより高齢者の社会参加を促進し、地域で働く場づくりを通じて地域社会の様々な需要にお応えし、生きがいの充実や健康保持増進を図る取組を進めているセンターの果たす役割は一層重要性が高まっています。

然しながら、コロナ禍にあって未だ収束が見えない昨今、事業の受注件数や契約高、会員の減少など様々な影響を受け、センターを取り巻く環境は依然として厳しい状況であります。このため超高齢化社会におけるシルバー人材センターの役割と重要性を再認識し、高齢者の生活の充実と地域社会への貢献に向けて取組んで参らなくてはなりません。

当シルバー人材センターの令和4年度の事業活動は、下記の表のとおり厳しい状況でございました。組織の基盤でもあり根幹をなす会員拡大につきまして、目標516名に対し374名でした。目標対比72.5%でした。余儀なく下方修正し指標を定め懸命に取り組んで参りましたが、結果的に目標に届かず大きく乖離しました。どの部分が足かせになかったかをあらゆる角度から検証、分析を行います。又契約高に於いては、目標1億9,000万円に対し1億3,880万円の実績でした。目標対比73.1%でした。

就中、コロナ禍での発注の控え、またエネルギー価格高騰をはじめあらゆる諸物価が高騰に転じたことも一因によります。

これからも、センター組織の基盤でもある事業運営の根幹をなす会員拡大、とりわけ女性会員の入会促進に力を入れると共に就業機会の拡大、さらには、地域社会を支えるものとして地域の方々に「愛され・信用・信頼・共感」を得るシルバー人材センターの構築を目指し継続して取組んで参ります。

次に、安全適正就業ですが、傷害・物損事故は前年度より僅か減少しました。事故の内訳は、傷害事故4件、物損事故9件でした。安全部会の委員の力をお借りして、安全パトロール（現場指導巡回）を実施しました。職員による現場打合せ時に現場指導も兼ねて実施しました。事故の原因については、就業者（会員）の年齢構成が年々高くなってきたことも要因の一つでもあります。

これらの事故原因について、検証、分析により何が足りなかったのか見出し対策を講じなければなりません。

適正就業につきましては、受注時にグレー就業を排除しコンプライアンスを遵守します。

2 対前年度との比較

(1) 会員数 (人)

(令和 5年 3月末)

	男 性	女 性	合 計	対前年度比%
令和 4 年度	2 2 2	1 5 2	3 7 4	・・・
令和 3 年度	2 2 5	1 5 5	3 8 0	・・・
増 減	Δ 3	Δ 3	Δ 6	9 8.4

(2) 請負・委任

(令和 4年 3月末)

	件 数	金 額 (千円)	対前年度比%	延人員 (人)
令和 4 年度	3,2 0 3	1 0 3,3 7 9	・・・	1 7,0 1 7
令和 3 年度	3,4 0 3	9 9,1 9 6	・・・	1 6,6 7 8
増 減	Δ 2 0 0	4,1 8 3	1 0 4.2	3 3 9

(3) 派 遣

(令和 5年 3月末)

	件 数	金 額 (千円)	対前年度比%	延人員 (人)
令和 4 年度	1 2 5	3 5,4 2 5	・・・	8,8 2 8
令和 3 年度	1 0 5	3 1,5 4 9	・・・	8,1 5 0
増 減	2 0	3,8 7 6	1 1 2.3	6 7 8

(4) 総 計 (請負・委任・派遣)

(令和 5年 3月末)

	件 数	金 額 (千円)	対前年度比%	延人員 (人)
令和 4 年度	3,3 2 8	1 3 8,8 0 4	・・・	2 5,8 4 5
令和 3 年度	3,5 0 8	1 3 0,7 4 5	・・・	2 4,8 2 8
増 減	Δ 1 8 0	8,0 5 9	1 0 6.2	1,0 1 7

3 会員の増強と組織・財政の充実強化

(1) 会員の増強

前述の表のとおり、対前年度比較では会員数は減少いたしました。お仕事説明会（回数増加）を本所と各公民館で実施しましたが思うほど成果に結びつかなかった。新規入会者数は 62 人に達していますが予想をはるかに下回ったことも挙げられます。今年度の退会者 68 人と入会者より退会者が 6 人上回りました。既会員の年齢が高齢化にともない体力の低下等により退会者が増加しました。退

会希望者の歯止めとして抑制をしましたが結びつきませんでした。今後は抑制の効果的な条件を考案することが求められます。シルバー人材センターの活動は、会員で成り立っておりますので、会員拡大について会員からの口伝えが一番効果的で「友達作戦」「一会員一人」「広報誌やマスコミ」等果敢な活動によって、更に、新入会員獲得に全力で取組まなければなりません。

(2) 組織・財政の充実強化

組織としては、すでに確立されてきていますが機能が少し働かなかったように思います。今後はどのような形にすると機能或いは活動が活発になるかが、今後の課題であると感じています。今後は、他センターとの情報の共有化を図り享受して参ります。財政的に非常に苦しい運営を強いられる中で、経費節減等掲げながら懸命に努力いたしました結果、決算はプラス計上になりました。今年度4月にサロンの移転に伴い移転料発生、また開店日数が減少になりました。今後シルバーアンテナショップで販売のみでなく活用について考案をする必要があります。来年度は、インボイス制度の導入に伴い財政的に非常に厳しい運営を強いられると思われまます。今年度、取り組みとして自前財源の確立に向け、「就業機会の拡大」と「会員の拡大」の両輪をもって推進して参りました。特に技能を要する剪定・大工・左官・襖、障子張替の就業会員が減少する中、後継者育成等の観点から講習会、研修会を実施しました。来年度も引き続き後継者育成に力点を置き・会員のスキリアップとして、技能・技術の習得に努め、発注者のニーズに迅速に応えると共にリピーター（顧客の呼び戻）に重点を置くことが肝要です。

(3) 地域班・職群班の充実

地域班は年2回以上の班会議を開催しておりましたが、今年度も新型コロナウイルス感染症により、殆どの班は中止を余儀なくされました。今年度は、資料のみの伝達等にいたしました。来年度は新型コロナウイルス感染症が収束に向かえばと期待しております。併せて例年通りの各地域で地域班会議が開催できることを願っています。課題として今後どのように工夫すると出席率が高まるか、地区委員、会員からの意見を吸い上げ課題解決に取り組みます。独居老人宅が年々増加傾向にあり、主に福祉サービス部門の就業が更に増加すると予想されますので、各地域にマッチングした就業を模索し提供する、併せて女性会員の拡大を中心に、地域の中いかに浸透させていけるか方策を考えながら取り組みます。

(4) 財政の健全化

今年度に、中期事業計画に基づき効率的な財政運営に努め、積極的に就業拡大

を図る一方、市当局に対し財政支援及び委託事業の更なる拡大について二回要望するなど財政基盤の安定化に努めました。令和4年度の決算状況について、週1回の職員会議を通じて意思疎通を図り収支相称に努めて参りました結果、120万円のプラス計上となりました。センターの運営は、国と益田市からの補助金、事務費収入及び年会費が財源となっており、効率的な事業運営に引き続き取り組みます。職員のスキルアップ及び規程類の整備等をいたしました。

事業費について、請負・委任、派遣事業及び独自事業等それぞれ新型コロナウイルス感染症、諸物価高騰等により計画通りの伸長はありませんでした。危惧しているのは、受注件数の大幅な落込みです。契約高は若干増加しましたが、配分金の引上げ又は事務費の引上げが要因と思います。苦しい財政運営を余儀なくされておりますので、事務局体制の効率化を含め、理事会等で十分な協議を重ね、財政運営上収支相称に向けて更に取り組まなければいけないと思います。また、継続的な需要は財政的な大きな影響を及ぼすものと思いますので、公共からの事業は財政基盤を構築するものであり、要望等でご理解を得て発注は年々微増しておりますが、更に増強に努めなければなりませんので行政等へ強力的に要望し、公共からの事業の拡大と併せて契約金額の向上にこれからも努めます。

(5) 研修等の取組

来年度に消費税法改正に伴い、インボイス制度が導入されますので各種会議・研修等に於いて、会員への周知に努めました。詳細については、今後確定しだい周知を図って参ります。又デジタル社会の到来を踏まえた事業展開が進められる中、当センターにおいてもデジタル技術の活用を推進していかなければなりません。このため、デジタル化を図る上での基盤として会員向けスマホ教室の拡充等により会員のデジタルリテラシーの向上に努めました。新型コロナウイルス感染症により各種総会、中国ブロック研修・セミナー等縮小により実施となりました。

然しながら、感染防止対策を綿密にして、当センター主催の後継者育成を基軸とした、刈り払い機取扱講習・剪定講習・室内清掃講習及び介護予防リーザ講習と併せて安全講習を実施しました。発注者のニーズと事故防止の観点から会員の資質を高めることが求められるので、来年度も各種講習を実施いたします。今後も島根県シルバー人材センター連合会の協力をいただきながら充実を図らなければなりません。

(6) 啓発事業の推進

今年度も、新型コロナウイルス感染症の影響により、アンテナショップ（サロン）で趣向凝らした手作りマスクを販売いたしました。お客様から大変喜ば

れております。また、普及啓発促進月間として、三密避けながら会員、役職員による風光明媚な持石海岸清掃を実施しました。今年度第15回目萩・石見空港マラソン大会が開催されましたので大会前日に綺麗な走路にと実施いたしました。関係機関等から沢山のお電話等により称賛いただきました。また各地域班(20班)に於いて感染防止対策を取りながら、それぞれの地域に沿ったボランティア活動を実施しました。各新聞に掲載され、又ケーブルテレビジョン等で放映もして頂きました。又年間を通じて会報・機関紙等をはじめチラシの配布物を活用し、市民から「信頼・共感」・「親しまれ」・「愛される」シルバー人材センターを目指して参りました。これらをふまえ、来年度も引き続き啓発活動に努めます。毎年市民から期待されております「会員作品展」は、新型コロナウイルス感染(第7波)が拡散しましたので余儀なく中止いたしました。来年度は開催できればと期待しています。

4 就業機会の開拓

(1) 就業機会の開拓

就業機会の拡大と会員拡大はシルバー人材センターの根幹であるため担当理事が中心となって、チラシ等を街頭において配布、サロンやハローワークへの載置、会員拡大を主眼とした各種団体や退職者及び雇用延長終了者へ入会促進のため市内一円ターゲットをしぼり、事業所訪問に努めました。就業開拓に今まで以上の開拓を求めるとしたら知識・技能・経験をもった会員の資質・向上育成が必要になります。したがって今年度も、知識・技能の向上と安全就業のために各種講習会を実施しました。来年度も引き続き各種講習会を計画いたします。また、昨年同時期に依頼のあった受注について検証(事業)し、今年、依頼がなかった場合にはリピーターへ依頼するなど積極的・果敢な取り組みをこれからも継続いたします。

(2) 独自事業の開拓

厳しい財政運営のなかで請負・委任及び派遣事業、独自事業の実績は、今年度も、新型コロナウイルス感染症、物価高の上昇により伸張しませんでした。独自事業は、年度当初ふれあいサロンに於いて、サロン移転のために一時閉店いたしました。またコロナ禍等により営業を余儀なく閉店しました結果、来客数8,350人対前比 88.9%・販売実績 298万3千円対前年比107.3%でした。独自事業の開拓も必然的に重要になってきます。当センターは、立地条件の良いシルバーふれあいサロンを運営しております。従ってふれあいサロンで新鮮な野菜販売等しておりますが、今後は、斬新な物品販売はもちろんですが他に何かと暗中模索

をしております。そこで、来年度は更にシルバーふれあいサロンの活用について検討中であります。

(3) 安全・適正就業の推進

ア 安全就業は申すまでもなく「安全は全てに優先する」合言葉のとおり最重要課題であります。その中で今年度は、会員一人一人が「自分の身は自分で守る」と自問自答繰り返しながら取組ましたが、残念なことに傷害事故4件・物損事故が9件発生いたしました。昨年度より傷害事故1件・物損事故2件減少になりました。事故の種別で検証しますと、草刈・センター車使用時が殆どの物損事故でした。これらを鑑み 謙虚に且つ緻密に「事故の検証」「原因究明」行い対策を講じ、就業にあたっては確実に「反省反省」を実行し教訓として生かして参ります。来年度も引き続き「事故ゼロ」目指し、就業前に「安全就業対策基本計画」及び「安全就業必携ハンドブック」等熟読を重ねて事故防止に取り組めます。このことが、延いてはシルバー人材センターの「信用・信頼」に繋がるものと確信いたします。

イ 適正就業は、「公益社団法人」の冠を拝したときから最低限守らなければならない職務として、コンプライアンスに努め偽装請負を排除し適正就業に努めます。

(4) 相談、情報提供

入会を希望する高齢者を対象に、毎月2回以上のお仕事説明会を実施し、それ以外に於いても即入会希望者へは、随時お仕事説明会実施し入会の促進に努めましたが、残念ながら会員増に繋がらなかった。来年度に於いても継続的な取り組みをし、新たな取組としては、中心地に位置するシルバーふれあいサロンに於いて、月2回程度お仕事説明会を実施する計画です。又イベント等のおりは、ブースを設け高齢者からの相談窓口を設置し、広報活動等による情報の提供を行い併せて啓蒙活動に努めます。

5 事業の趣旨

- (1) 雇用によらない臨時的かつ短期的な就業又はその他の軽易な業務に係る就業機会の提供を行う。
- (2) 雇用による臨時的かつ短期的な就業又はその他の軽易な業務に係る就業機会の提供を行う。
- (3) 知識及び技能を付与するための講習を行う。
- (4) 上記の事業を推進するための諸活動、及びその他の社会参加活動を推進するための活動を行う。